平成２６年度第４回（第３９回）幸町地区学校適正配置地元代表協議会議事要旨

１　日　時　　平成２６年１０月９日（木）午後７時～８時２０分

２　場　所　　幸町公民館

３　出席者
（１）委　員　　１８名　　＊欠席２名：蟹江委員、守委員
（２）事務局　　５名　　＊企画課：大崎課長、伊原統括管理主事、市倉課長補佐、
安井主査補、塚田主任主事
（３）傍聴者　　１名

４　報告・議題
（１）【報　告】前回協議会の協議概要とそれ以降の取り組み
（２）【議題１】中学校の適正配置について

５　会議資料
（１）次第・席次表
（２）資料１　前回協議会の協議概要とそれ以降の取り組み
（３）参考資料１　議長提案
（４）参考資料２　中学校の統合について
（５）参考資料３　幸町地区・千葉港地区の状況について
（６）参考資料４　広域的な学区調整等を含めた学校適正配置について[幸町地区]
（７）別紙　　第３８回幸町地区学校適正配置地元代表協議会議事要旨

６　会議の概要
（１）【報告】前回協議会の協議概要とそれ以降の取り組み
事務局が、資料１に基づき、前回協議会とそれ以降の取り組みについて説明した。
（２）【議題１】中学校の適正配置について
第二中学区分科会での協議結果を受けて、今後の協議の方向性について協議した結果、「中学校については、統合を見送ることとし、幸町地区地元代表協議会については、協議を終了する。」ことが合意された。

７　発言要旨
（１）会長挨拶　＜長岡会長＞
この協議会も３９回目となり、大変長く続いている。中学校の統合については、なかなかうまくいかない状況であるが、本日もよろしくお願いする。

（２）報告「前回協議会の協議概要とそれ以降の取り組み」
＜事務局＞
前回までの協議概要とそれ以降の取り組みについて説明する。
○第３６回協議会「全体会」　4/12(土)
広域的な学区調整等を含めた学校適正配置の検討結果「現行の通学区域を原則とする」ことについて、苦渋の決断であるが了承された。

○第３７回協議会「第二学区分科会」①　6/5(木)

亀田副会長より、議長提案が示され、各団体で意見を取りまとめ、次回協議会（分科会）で協議を行うことが確認された。

○第３８回協議会「第二学区分科会」②　7/31(木)

議長提案に反対する団体が多いことから、第二中学区分科会として合意を得ることができないことが確認され、次回全体会で報告することとした。

＜木幡議長＞

事務局からの報告について、何か質問はあるか。

＜一同＞

特になし

（３）議題１「中学校の適正配置について」

＜木幡議長＞

まず、「第二中学校区分科会」の協議内容について、改めて事務局より報告していただき、分科会に関わる委員より、補足説明があればお願いする。最初に、事務局より、資料説明を含めて報告をお願いする。

＜事務局＞

前回協議会の協議内容を報告するとともに、本日の資料について説明する。

○第３８回協議会（第二中学区分科会）

中学校の統合については、議長提案に対する意見を取りまとめてきた各団体の報告を受けて、次のことが確認された。

・議長提案については、反対する団体が多いことから、第二中学区分科会として合意を得ることができない。

・今後の協議については、本日の協議結果を次回全体会で報告するとともに、中学校の統合協議における今後の方向性についてどうするかを検討する。

○参考資料１～４について、確認する。

・参考資料１～４については、前回協議会で配布した資料であり、協議の参考としていただきたい。

・参考資料４については、２６年度の推計値に修正したものである。

＜木幡議長＞

次に、「第二中学校区分科会」の協議内容について、分科会に関わる委員より、補足説明があればお願いする。

＜田中委員＞

議長提案を受けて、第三小と第二中ではアンケートを実施したので、一括して報告する。両校とも７月前半にアンケートを実施し、７月３１日に開催した分科会の議事要旨にもあるとおり、第三小は、回答率 65.5%であり、議長提案に賛成 36.2%、反対 62.1%、どちらでもよい 1.7%という結果であった。　第二中では、回答率は 48.2%であり、議長提案に賛成 36.2%、反対 62.1%、どちらでもよい 1.7%という結果であった。結果として、圧倒的多数で反対が多かった。この結果を受けて、ＰＴＡとしては反対を表明した。

第三小での個々の意見は分析し切れていないが、主な意見は次の３点であった。

・中学校統合自体は反対でないが、統合場所が第一中では賛成できない。

・規模の小さい第一中を統合場所とすることに違和感がある。

・第三小の環境問題は、中学校の統合とは別の問題として検討すべきである。

また、地区別でも集計しており、千葉港地区の反対は多いが、幸町１丁目地域でも反対の方が多かった。保護者の中には、第二中出身の方もいるので、そういった方は思い入れも強かっ

たと思われる。
＜保坂委員＞
第二中についても、概ね第三小と同様の意見である。
＜上原委員＞
千葉港地区は、議長提案に対して反対となった。マンションごとの結果については、次のとおりである。
・ブラウシア自治会は、当初は統合自体に反対であったが、現状では統合自体は容認だが、統合場所が第一中では受け入れられないという意見である。
・千葉みなとパークハウス自治会では、議長提案を受けて、初めて全体アンケートを実施した結果、反対が多数であった。
・ウェリスガーデン千葉みなと公園自治会では、９０％以上の住民が反対であった。
なお、分科会でも説明したが、主な理由については、次の３点である。
・通学距離が遠くなる。これは、遠いということよりも、現状より遠くなるという意識である。
・生徒数の多い第二中を統合場所とする方が、自然である。
・施設面から見ても第二中の方が適切である。建築年数が新しく、施設レイアウトからも好印象を受けた。
＜巖倉委員＞
第二小の学校評議員だが、今月末に評議会を開くにあたり、確認しておきたい点がある。第二小では、中学校が統合するのであれば、統合中に通うことになるが、統合しない場合には希望者は第二中に通えるという約束になっていると認識しているが、いかがか。
＜事務局＞
巖倉委員の質問に対しては、参考資料２の上段をご覧いただきたい。統合に伴う通学区域の弾力的な運用については、ここに記載されているとおりである。「統合校開校時に、現幸町第二小区内から通学する１～６年生については、希望をすれば従来どおり幸町第二中への進学を承認する。」
＜安藤委員＞
ただ今の事務局の説明について追加の確認をしたい。当時の議事要旨をみると、開校時に１～６年生でなくても、兄姉が第二中に通学していれば、その弟妹も弾力的な運用の対象となるとなっているが、変わっていないか。
＜事務局＞
そのとおりである。
＜木村委員＞
第一中のＰＴＡである。議長提案に対して、反対している団体の意見の中に、「中学校の統合問題に第三小の問題を出すのは筋違い」とあるが、長年この協議会に携わってきた委員としてこの意見に違和感を覚える。元々、学校適正配置というのは、小・中学校の議論が同時にあったはずである。しかしながら、中学校統合協議が難航したので、小学校が先行しただけである。小・中学校の議論を同時に進めていたならば、違った結果になっていたのではないかと思う。
また、前回の議事要旨に「区立」ではなく「市立」であるとあったが、それであれば尚更、広い視野で考えるべきである。中学校は、地域にとって最も密接な施設であるので、これをどの様に活かしていくかを導き出せればよかった。
このような思いはもっており、議長提案が受け入れられなかったのは非常に残念である。
＜布施委員＞
第一中の学校評議員である。各団体のアンケートで、中学校の統合自体には賛成とあったが、その中の具体的な意見には、どのようなものがあったのか、紹介して欲しい。

＜田中委員＞

申し訳ないが、深く読み切れていない。また、今回のアンケートでは、議長提案を受けて、統合場所を第一中とするのに賛成か反対かといった問い方をしている。その結果の大勢として統合は止むを得ないが、統合場所を第一中とすることには反対ということである。

＜保坂委員＞

今回のアンケートは違った観点であるが、第一中の生徒推計の減少を踏まえて、統合自体は容認と捉えている。

＜上原委員＞

千葉港地区は、この協議会の情報を地域住民に持ち帰った結果、次の２点から統合自体は容認という立場となっている。

・第一中では、生徒や教員が少ないことにより、生徒の好きな部活動ができない。

・子どもの育成の観点から、より多くの生徒と切磋琢磨した方が、成育上よい。

＜巖倉委員＞

私は、いつも思うのだが、「第二中や第三小の地域の皆さんは、第一中を見たことがないのではないか、そもそも行くことのない地域ではないか」と思う。そういう知らないことや他地域のような感覚が、このような結果に結びついたのではないかと思う。

＜木幡議長＞

さまざまな報告や意見が出されたが、第二中学区分科会で協議した結果について、「中学校の統合に向けて合意形成を図ることができず、統合を見送らざるを得ない」との報告を受けたところである。したがって、「中学校の統合は見送る」ことについて、本協議会として確認しなければならない。この結論について、よろしいか皆様に確認を行いたい。

＜一同＞

特になし（黙認）

＜木幡議長＞

今後の進め方については、後ほど議論を行うが、まずは中学校の統合に関する結論を出さなければ前には進まない。

再度、確認する。第二中学区分科会での結果を受けて、「中学校の統合については合意ならず」ということを協議会全体としても確認したということでよろしいか。

＜一同＞

異議なし（了承）

＜木幡議長＞

では、ただ今の結論「中学校の統合見送り」を受けて、今後の協議会の議論をどう進めるかについて、協議を行いたい。事務局から議論の口火を切るような考えがあるか。

＜事務局＞

今後の協議の方向性については、本日の「中学校の統合見送り」という結論を受けて、基本的には議論するテーマがなくなることから、協議会を終える選択肢と、これで終わりにするのではなく、協議会の場を継続させるといった選択肢があると考える。それについて、本協議会で方向性を出していただければと思う。

＜木幡議長＞

過去の経過などを踏まえて考えられる方法としては、年１回程度は情報交換も含めて協議会の場を継続するか、本日で一定の結論が出たことにより役目は終えたので、本協議会自体を終了・解散するかということになる。確認するが、中学校統合については、先ほど結論が出たので、協議会を維持しても、引き続き中学校の統合協議をすることはしない。

＜安藤委員＞

今回、結論が出たところだが、そうはいっても第一中の生徒が減っていくのは現実である。

そういう中で、また数年、５年、１０年後にやはり統合が必要だといった議論は出てくるのではないか。しかしながら、すぐ数年後にまた話し合いをしましょうといって、議論を蒸し返すのは正直止めていただきたい。「統合するならする」「統合しないならしない」とはっきりしてもらいたい、この中学校の統合に関する議論が続く限り、第一小や第二小の跡地活用の議論も進まない。そういった状況は、地域にとっても良くないと思う。

したがって、この結論をもって協議会を解散するといった選択については納得する。数年先に、再度議論するということは止めていただきたい。

＜事務局＞

これまで真摯に協議をしていただき、分科会を経て、本日の協議会で中学校の統合を見送るといった結論を出していただいたところである。

今後については、このまま協議会を維持するといった手法もあるが、この協議会が継続する限り、地域住民の方々や児童・生徒に「中学校の統合がいつかはあるのではないか」というような不安感を与えることになる。それは、児童・生徒にとって、決して良くはないことではないかと考えられる。

アンケートを踏まえ、特に「第一中を統合場所とする統合には反対」といった多くのご意見がある以上、例えば３年後、５年後に大きな状況の変化はないと考える。しかし、１０年後、２０年後については、幸町地区に限らず、千葉市全体も変化していくので確約はできない。

地域ごとの教育課題を改善する手法というのは、適正配置（統廃合）のみではない。適正配置を含め、様々な教育制度の見直しなども、国において盛んに議論されているので、そのような動向も含めて、この地域の教育環境を良くする方法ということは、引き続き検討をしていく。やみくもに数年後に再び、統廃合の議論を地元に投げかけることはなるべく避けるべきだと考えている。

＜木村委員＞

今の説明を受けて質問がある。第三小の過密化などの問題は、学校適正配置とは別の問題として検討いただけるという認識でよいのか。

＜事務局＞

第三小については、生徒数が多く、教室数がギリギリの状況だということは認識している。これまでにも、地元代表協議会等で説明させていただいているが、現在は確かに厳しい状況であるが、推計では児童数は徐々に減ってくる見込みである。

また、千葉港地区から登戸小へ通っている児童もいるなどの課題もあるので、それらも含めて、第三小の問題を検討していかなければならないと認識している。当然、第二中についても同様である。

＜木幡議長＞

それでは、この協議会の継続を求めるといった意見はないようである。よって、本日の結論を受けて、本協議会の役目を終えたと捉え、終了することでよろしいか。

＜一同＞

異議なし（了承）

＜亀田委員＞

先ほど、安藤委員から意見があったとおり、数年後に再び統合に関する議論を地域に委ねるのは止めてもらいたい。本件については、地域では議論が並行線である。仮に、改めて統合を検討する際には、これからは行政主導で進めてもらいたい。

＜木幡議長＞

このようにいろいろな意見があったということを事務局はしっかり受け止めておいていただきたい。以上をもって、本日の協議を終了とする。

本協議会は、千葉市の第二次学校適正配置実施方針に基づき、平成２０年に設置された。

また、私を含めた何人かの委員は、第一次の実施方針から携わっており、それは平成１６年からとなるが、本日まで約１０年にわたって、学校適正配置の検討に関わってきたことになる。地域住民が子どもたちのためを思って、協議を積み重ねてきた。この経過は、これからこの地域の子どもたちの教育について考える土壌として、決して無駄ではなかったと思う。

本協議会の最後の議長となるが、これまでの皆様の真摯な取り組みに感謝を申し上げて、本日の及び地元代表協議会としての議事を終了したいと思う。

（４）諸連絡

＜事務局＞

・本日の議事要旨については、後日、委員の方々に修正依頼をお願いする。訂正等あった場合は、期限までに返送をお願いしたい。

・本日の協議結果については、各団体に持ち帰り、確実に報告をしていただきたい。

・第一小と第二小の統合校説明会を平成２６年１１月２２日（土）午後３時～第一小体育館で開催するので、ご都合がつく方はご参加いただきたい。

＜木幡議長＞

各委員から、何か確認事項やご意見はあるか。

＜安藤委員＞

最後に、思いの丈を話させていただきたい。私は、これまで誤った認識をしていた部分があった。第二小と第一小の統合が決定した際の条件として、「中学校の統合」があったと思ったが議事要旨等を見直したところ、「中学校統合について継続的に協議」することが条件であった。そういう意味では、この条件はこれまでの皆様の真摯な協議で守られたと思っている。それも踏まえ、今回の結論に同意した。

一方で、私を含め第二小の保護者の多くは、教育委員会が当初示した幸町地区の適正規模とされた「２小１中」という枠組みがあったので、「いずれ中学校も統合するだろう」と思っていたと思う。その思いがあったからこそ、第二小の統合にも賛成したのだと思う。

決して、他の団体・地域を目の敵にするわけではないが、他団体の意見の中で、中学校統合に関して、通学距離が遠くなるといった意見が多くあった。私としては、そんなこととの思いはある。

私事の話で申し訳ないが、私には来年に小学校にあがる子どもがいる。目の前にある第二小ではなく、旧第四小の場所の統合校まで歩くことになっている。大人から見れば、大した距離ではないかもしれないが、小学１年生の足では１０～１５分はかかってしまう。第二小が受け入れた状況を考えると、中学生の登校時間が１０分、１５分長くなることの何が問題なのかと正直思う。

先ほど別の委員の意見にもあったが、やはり各委員・各団体など、全体として「地域の子どもたちのため」よりも「自分たちの子どもたちのため」という意識が強かったように感じて、残念に思う。もう少し、「自転車通学」や「スクールバスの運行の可能性」など、様々な視点から検討することはできなかったのかという思いはある。

第二小からすると元々、第二中学区であった中で、小学校統合に伴い第一中に学区が変わった。弾力的な学区運用はあるにせよ、基本的には第一中に通う子が多くなると思う。そうすると、これまで大規模校であった第二中から、小規模校である第一中に通うことになる。保護者にとっては、学区が変わるということは大きな不安であり、リスクだと思う。その不安を抱えても、旧第四小の切迫した小規模校化や第二小自体の小規模校化を踏まえて、地域全体のことも考えて、統合に同意した。言葉は悪いとは思うが、第二小が犠牲になった部分があると思う。しかし、これからは新設小学校で第一中学区をより良い学区とするために、みんなで取り組んでいきたいと思う。

なお、今後について、教育委員会にお願いがある。

これまでの統合等についても、教育委員会に振り回された部分が多々あったと感じている。統合小学校についても、数年後の児童増により、教育用品置き場を普通教室に転用しなければいけないなどの状況があると聞いている。そのような物品整理をする現場の先生の負担もある。先生が負担や不安を感じれば、それは子どもたちに良い影響を与えない。改修工事についても、入札不調等の事情は分かるが、スムーズに進んでいないと聞いている。

これだけ、１０年に渡って地域と教育委員会で導き出した結論であるのだから、結論が出た後の対応についても、しっかりと進めてもらいたい。そして、より真剣に子どもたちの教育環境をよくするために取り組んでもらいたい。

＜八島委員＞

それでは、私も少し話をさせていただきたい。長い間、取り組んできて、本当に小学校の統合に関しては、苦しい思いをしてきた部分があったなと思う。ただ、これは子どもが言っていたことだが、最初は「統合校が旧第四小の場所となって、遠くて嫌だなー」と言っていたが、最近は「第二小場所でもよかったかなー」と言っている。それは、通学時間が長くなる分、友だちとおしゃべりをする時間が長くなるということの様である。おそらく、友だち同士で会話をする中で芽生えてきた共通の意識なのではないかと思う。

子どもたちは、統合が決まったら決まったで、新しい環境で楽しみを見つけ、子どもたちなりに納得して成長している。子どもたちは、大人が決めた統合という事実に一生懸命についてきてくれている。まだ、校庭開放の問題など問題は山積みであるが、子どもたちのことを考えて、頑張っていきたいと思うので、今後もよろしくお願いする。

＜木村委員＞

それでは、私も少し話させていただく。私は６年前からの参加だが、協議会としては１０年をかけて、子どもたちのことを考えてきた。保護者も地域の方々も「子どもたちのため」という芯の部分の思いや考えは一致していたと思う。ただ、芯の回りの部分での認識が少しずれていたのかなと思う。もう少し、視点を変えたり立場を超えたりして建設的な意見が出れば・・・という思いはある。

＜巖倉委員＞

私も、一言、言わせていただきたい。小学校統合については、できれば統合場所は第一小か第二小が良かった。会長・副会長から、苦渋の決断で第四小という提案があり、止む無く了承した経緯がある。もともと第四小は、みんなが集まる公園であったことを考えると、地域としても、この決断は感慨深い思いがあることを付け加えておく。

＜木幡議長＞

最後に、思いの丈を話したい方は、他にはいるか。

＜一同＞

特になし

（５）閉会

＜長岡会長＞

本当に長い長い時間をかけて「子どもたちのため」に取り組んでいただき、大変感謝する。この地域には、第三小の子どもルームの問題をはじめ、まだまだ様々な問題がある。何も、学校適正配置だけが、地域の教育問題ではない。今後も、地域の子どもたちの教育・子育てに関する環境改善について、各々の立場で頑張っていただきたいと思う。

＜企画課長＞

これまでの皆様の真摯なご協議に対し、教育委員会を代表して、お礼を申し上げる。

平成２０年２月から数えて３９回にも及ぶ協議を行っていただき、とりわけ長岡会長、西村副会長、木幡副会長、亀田副会長におかれては、会の運営に大変お骨折りをいただいた。各委員におかれては、毎回、協議内容を持ち帰り、各団体で検討していただき、協議会において、さまざまな角度から議論をしていただいたことに、心より感謝申し上げる。

現在、第一小と第二小の２７年４月の開校に向けて、教育委員会としても最終準備に入っており、第一小・第二小のＰＴＡ、学校、地域の方々にも、円滑な統合に向けて、多大なご尽力をいただいているところである。

今後も、幸町地区の子どもたちの教育環境の整備と教育の質の充実を図るため、ご助力いただければと思う。季節の変わり目、くれぐれも健康に留意され、今後もますますご活躍されますことを、ご祈念申し上げ、お礼の挨拶に変えさせていただく。